

● 平成23年度 第9回旭地域会議 会議録 ●

【日 時】平成23年11月17日(木) 19:30～21:20

【場 所】旭支所 第1会議室

【出席者】<委員18名>

鈴木正晴(会長)、押切英夫(副会長)、安達和治、伊藤満彦、鶴居利行、
江端芳子、大内富元、加藤重夫、後藤透、近藤常隆、鈴木久仁、中村芳樹、
藤谷招宏、藤野さよ子、松井隼夫、松井孝王、松井正勝、松井緑

<事務局4名>

塚本誠(支所長)、本田茂(主幹)、松井克仁(係長)、中垣幸久(主査)

<オブザーバー1名>

勝野隆(旭交流館長)

【次 第】

- 1 開 会
- 2 豊田市民の誓い唱和
- 3 会長あいさつ
- 4 集落ビジョン策定進捗状況について
- 5 今後取り組むべき課題及び解決に向けての意見交換について
- 6 その他
- 7 閉 会

【内 容】(要約)

1 会長あいさつ

- ・鶴居利行委員が、叙勲の栄に浴されました。おめでとうございます。
- ・8月に「木の駅プロジェクト」実行委員会が立ち上げられ、11月12日(土)に出陣式が行われ、順調にスターとした。今回は志材(寄付材)を集めながら運営費を賄う。一方で、燃料としての使途も検討していく。
- ・福蔵寺(太田町)の山林をボランティアが間伐し、木の駅へ志材として提供していただく。このため11月16日(水)に簡易集材機で集材テストを行い、11月22日(火)に本番を迎える。
- ・11月13日(日)に福蔵寺(太田町)で2回目のご縁市が開催され、約400名の参加があった。知多から来た人に「何故こんなに人が集まるのですか?」と尋ねられた。いろいろな形で情報発信しているとともに、地域の人たちの参加によって賑わっていることを説明した。

2 集落ビジョン策定進捗状況について

○事務局が、資料に基づいて説明

- ・集落懇談会を各集落で3回ずつ実施する予定です。
- ・1回目は、今の状況や5～10年後は人口がどのようになるのか集落カルテを参考に共
地域会議

有するとともに、集落の良いところと課題について話し合ってください。

- ・ 2回目は、1回目で出された課題を整理し、課題の解決策について話し合ってください。また、キャッチフレーズを設けて、将来に向かって目指すべき方向性を検討します。
- ・ 3回目は、2回目に話し合っていた課題解決のまとめたものについて、議論していただき、集落ビジョンを策定します。

3 今後取り組むべき課題及び解決に向けての意見交換について

- ・ 会長：地域会議では、限られた期間のなかで課題解決について議論していくので、どうしても時間が短いということがあります。旭地域会議では、分科会方式で課題解決を考えています。また、5年計画（旭ビジョン）も持っています。
この後、皆さんからご意見をいただき、次年度以降の課題解決につなげていきたいと思えます。

- ・ 委員：まちづくりアンケートで一番感じたことで、個別に意見を求められるものがあつた。マイナスの方向を気にしてしまうが、それで思ったことは、お役としての活動が多すぎること。

青年層には、消防団活動があり義務化している。個人の思いとして好き嫌いがあり、嫌いな人は外へ出てしまう。

私自身「お役をどのようにすれば、自主的かつ楽しく参加できるのか？」と思う。

当町内会ではお役が非常に多い。県道草刈り年3回、河川の草刈り年2回、町内の市道の草刈り年2回、老人会の県道草刈り年2回、お宮の草刈り12回、念仏講毎月旧暦の14日、観音講毎月旧暦17日、弘法大師、二百十日お百度参り、お彼岸の念仏等々、20～30回ではきかない。

草刈りは、夏の期間（6月～10月）、月に2回は行っていることになります。

30～40代の人にとって、子どもたちを夏休みにディズニーランドやプールに連れて行ってやりたいが、草刈りがいっぱいあります。

ある時、座談会があり、若い人が何故出てこないのか尋ねたことがあります。その時の答えは、ほかにPTAのバレーボールやPTAの草刈り、消防団活動（毎日訓練する時もある）があるということでした。

非常に忙しい。田舎の方がより忙しい。何故、田舎暮らしが忙しいのか。

お正月もその一つ、元旦に集まる。私の考えでは、元旦には朝9時頃に起きて、御屠蘇を飲んで楽しく過ごせばよいと思うのだが、お宮で年頭のあいさつをする。年末にも会っているし、話す話題も特にない。折角、子や孫が来ているのに、家で孫とカルタ取りなどして楽しく過ごせばよいのにと思う。

それをどうにかしたい。マイナス思考の意見をもう一度考えたい。

- ・ 委員：お役が多くて気の毒に思う。

当町は、年2回の草刈り、お宮の草刈り1回の計3回、県道はなく8軒で活動している。今後の取り組むべき課題については、継続しなければならない。

浅野自治区では、合併前に「スモモ」を各戸6本ぐらいつつ植樹したが、こういったものを活かしたらよい。

- ・委員：旭ビジョン目標将来像3の観光については、明賀のように、花などいろいろ作っていけたら、それを発信していけたらよい。観光案内所を早急につくってもらい、旭のいいところを案内できるようにするとよい。
旭地区は、自然豊かなところ、地域予算を使って取り組んでほしい。
- ・委員：わくわく事業など地域の活動を生み出してきて良かった。
地域全体に地域振興ができればよい。
「旭の特産物こういうことをやりたいので応援してもらいたい」という申し出のある団体、グループ等への活動支援だけにとどまらず、不足しているものをこちらから提案できるとよい。
旭の中に観光案内看板をつくっているが、旭にメインとなるところがない。メインターミナルを作って、観光案内所ができるとよい。
- ・委員：若い人の就業の場の確保が必要です。
人口は昭和30年に8,300人、今3,200人である。旧旭町時代から過疎対策は行われているが、成果はあがっていない。
小渡小学校49人、小渡子ども園9人、学校がなくなれば住みたくなくなります。
30年先、なくなる集落ができるのではないか？
旭地区外の就労者は44%、旭に住んでいる理由の一つにお墓や財産があります。
30年以内に8割の確率で大地震がおきる。県によれば550集落が孤立し、その半分は豊田市とある。旧旭町時代には、100人の職員がいたが、現在旭の職員は、5人ぐらいではないか。災害時に人数が足りない。市職員を要請しても道路災害でこられない。住民組織をつくって、その体制を整備する必要があります。
- ・委員：観光客が来ても、食べる所がない。その充実を図ったらよい。
地震災害で、集落が孤立する場合に備えて、各集落でその対応をしたらよい。
- ・委員：自分の子どもであったら、就職を家から通勤できるようにする。女房は束縛するな（自分の好きなことをやりなさい）といったが、タイミングよく自宅から通勤できるところに就職できた。
ブータンは世界一幸せな国といわれているが、どうして幸せなのかと思う。ブータンからよいヒントがないのかと思う。
- ・委員：生協の移動販売車が、当町に来るようになり、非常にありがたい。1回目は30世帯のあるうち20世帯から買物に来た。
区長会は反対したと聞くが？
- ・委員：区長会は、反対したわけではない。慎重にやりましょうということになった。住民の皆様のことも考えたが、一方では商売で生活している人もいます。商工会にもこの話はいつています。区長会としては、各組で検討していただくようにしました。
- ・支所長：区長会では、組それぞれに事情が違うので、各組で判断してもらった。
生協は各組に要望調査をした。地元には、乾物、加工食品はあるので、生鮮食料品を中心に販売してほしいということで進んでいます。
- ・委員：生協もよいが、本来は、商工会が考える姿が望ましいことではないかと思う。
- ・支所長：同感です、地元の店にお話ししたが、補助金を活用してやるようにはならなか

った、2年後、生協の移動販売が始まった。

- ・委員：地域会議として取組が必要なことに関するアンケート結果では、1位が農地や山林の荒廃、獣外対策への取組、2位が一人暮らし高齢者の支援など、福祉問題への取組、3位が過疎対策・定住促進への取組となっています。

1位については、市の施策が充実しており、それらを利用すれば補うことができます。3位については、過疎定住対策として、旭ぐらし体験事業（地域予算提案事業）、空き家情報バンク、市営住宅建設などの事業が進められています。

2位の取り組みについては、小原地域で訪問サポーター制度があるので、こういった制度を参考に福祉問題に取り組んだらよいと思います。

- ・委員：観光を考えてしまうが、イベントをやるにしても人が少ない、足りない。旭には外から来ておもしろいと思う観光資源がいっぱいあります。

集落だけにとどまらず旭全体で、その話題ができるように盛り上げたり、外から力を借りながらお手伝いができるとうい。福蔵寺で行われたご縁市は面白かった。旭全体の観光を戦略的に考え、一番におすすめできる商品を開発し、まず旭は、これを売っていき。例えばしだれ桃とか。共通認識できると観光でやっていけるのかと思う。

お役は多すぎる。やらないといけない部分もある。5年後10年後できないよね！若い人達が入って、住み続けられることが必要、来てくれる人をウェルカム！仲間にすることが必要と思う。

- ・委員：道路整備や観光振興もあるが、情報の通信技術が遅れているのでは、防災防犯についても、通信技術をもっと発展させなければいけないと思う。

- ・委員：アンケート調査結果では、道路、農地、山林のことがいつも課題となっています。まちづくりの基本は、見た目が大切、外から来た人が荒廃したところを見ると旭の印象が悪くなる。荒廃対策をやるべきです。

子育ての支援があるとよい。

- ・委員：まちづくり分科会では、買物支援も検討したが、生協の移動販売の情報があったので、定住対策に変えた。

坪崎の火災では遠回りをした。道路整備と支障木伐採の取組がよいのではないかな。

- ・委員：加塩町は、国道に近く足助方面への道路状況は恵まれています。

お役の行事は、年に5～6回ある。作業では命綱をつけ水の中で草刈りを行うところがあります。こんな危険な作業をお役でやってよいのか？ 70～80歳の人が急傾斜地でやっています。

イノシシ対策でフェンスの取り付け作業を毎週行っています。本当に3K（きつい、きたない）の作業であり、こんなところを見て、ここで生活してよいのかと子どもたちには危機感があるのではないかな。

家から通うと、お役も何でもやれます。一方、まちに行けばまちの生活になじんでしまいます。重労働、危険な作業は行政に手助けしてもらおう対策が必要、それを解決しないと、休みが日曜日だけなので、ここに住まなくなるのではないかな。若い人が住めるような定住対策が必要です。

伝統行事も多い。お祭りの太鼓のたたき手や笛を吹く人は減少しています。

- ・委員：働く場の確保と企業誘致が必要です。
買物、周に1回だけでは解決にならない。医療体制は、例えば風邪を引いたら近くがない。公共交通機関は利便性の向上が必要です。今のおいでんバス（旭豊田線）は広瀬で乗りかえます。朝はよいが、帰りに渋滞すると2時間待ちになってしまいます。通学（高校）で利用しているが、乗り遅れた場合には、家族が広瀬まで迎えに行っている。過去に市にお願いしたが、改善していません。
- ・委員：旭の使命は、この美しい環境を守ること。地域予算提案事業として提案した木の駅プロジェクト推進事業のような事業を継続して行くことです。
地球全体では、人口が増加しています。うちの子もだけを呼ぶのではなく、外国人の人にも住んでもらうことを考えたかどうか。
- ・委員：Iターン、Uターンについて（補助制度があるかどうかかわからないが）、もしできれば提案したい。買物についても外で買物をする。地元で買物をしてほしい。跡継ぎも3分の1以下で、その仕事（商売）では成り立たない。高齢者世帯、独居の高齢者世帯、身内の方に帰って来ていただくような意識改革や方策を進めてほしい。
- ・会長：この地域の美しい田園を子や孫に残していきたい。耕作放棄地の解消、農地の保全、まちの人との交流活動を進める。活動を進めるためには、外部の人の力を借りないといけない。
課題の一番は定住対策で、引き続き取り組んでいく必要があります。
今後、福祉（買物支援を含め）や支障木についても取り組むべき大事な課題です。
- ・委員：都心への30分構想はどうなったか？
- ・支所長：新市建設計画には載っていない。こうありたいという議論はあったと聞いているが、実施計画レベルにはならなかった。新市建設計画には元気村と川の駅が盛り込まれています。
さて、旭支所で3年目になりますが、こういった時間がなかなかとれませんでした。興味深く拝聴させていただきました。
支障木については、6支所共通の課題として取り組めないか検討したい。
防災については、孤立のことも考え、また高齢者の見守りも含めて検討したい。
お役については、軽重をつけて簡略・合理化を考えないと負担感が増えてしまい楽しくなくなっています。住民が続けられるように、草刈り支援、地元組織の簡略化など少しずつ多くの場面で負担を減らし、少ない人口でも持続可能なように精査する時期が来ています。集落ビジョンで考えるうえでも強く感じたところです。ありがとうございました。

4 その他

- ・事務局が、旭地域バスの利用状況について資料に基づいて報告した。

— 午後9時20分 会議終了 —